

## 北陸新幹線から1年

北陸新幹線が開通して、約1年が経ちました。軽井沢では、軽井沢ウインターフェスティバルのイベントの一環である軽井沢ウエディング協会主催、「公開挙式」での幕開けとなった北陸新幹線。その後の問合せやメディアの対応から「新幹線の威力はすごい」ということを改めて感じました。

これまで、北陸へは4時間～5時間かかった移動時間が、1時間半～2時間ほどになりました。当然、北陸からの交流人口が増え、これまでと違った地域を意識するようになりました。観光PRは、これまでは東京・大阪が中心でしたが北陸でのPRも増えて、新しい目線でのPRが必要となっています。軽井沢が新幹線での通過駅とならないように、観光内容の充実が求められています。各案内所では今までに無かった北陸からの問合せが増えました。

宿泊施設からは「大阪からのお客が増えた」というお声も頂きました。今、各メディアから「北陸新幹線開通で変わった事は？」という問合せを受けています。

北陸新幹線開通が、観光を通じて良い意味で軽井沢発展につながる様に活動して行きます。

事務局 新宅 弘恵

## 「軽井沢検定」から「軽井沢WEB検定」へ

筆記にて第6回まで行われた軽井沢検定から、本年度はWEB上でどこからでも受験できる「軽井沢WEB検定」へ生まれ変わり、第1回「軽井沢WEB検定」を1月31日10:00-12:00、2月1日10:00-12:00に実施しました。過去6回行われた軽井沢検定は、第4回以降には、「7回目から従来の受験方式を変更して実施」等内容を変えていく方針を告知してまいりました。

従来の方式では、平日の1日を軽井沢中央公民館まで来て受験していただく必要がありました。サービス業の多い軽井沢町では、平日の方がお休みの方も多いため平日の受験日の設定でしたが、年々総受験者数が減ってきている問題がありました。また、検定問題内容の更新や実施する側の団体のボランティアである観光協会理事達で運営しており様々な問題を解決、改善することが必要でした。

WEB上から受験できる事により、その日に軽井沢町まで来ていただかなくとも全国津々浦々から受験していただけるようになり120名が受験しました。新たな「軽井沢ファン」を獲得できたという改善を見て取れたと思います。今後はこの検定ツールを使用し、軽井沢の更なる知識を掘り下げて色々な側面から「軽井沢」を語る事が出来る人材を発掘できるような仕組みも検討しております。

限られた資源・予算・人材の中で、継続事業として行えるよう担当理事、事務局職員と外郭の専門家の方々と様々な角度から多彩な意見と議論を交わし、アウトソーシングのIT業者と一緒に「軽井沢WEB検定」の試験サイトおよびeラーニングを行えるアプリケーションの開発をしております。

今後も継続事業として、委員会の理事および様々な方々と共に検討、実施、効果測定と改善を重ねて参ります。

事務局 柏木 麻理

## 2016年 軽井沢写真コンテスト作品募集!



グランプリ	1点	「ホテルペア宿泊券(1泊2食付)」+特製フォトフレーム+賞状
準グランプリ	1点	「ホテルペア宿泊券(1泊2食付)」+賞状
入選	3点	「ペア食事券」+賞状
佳作	5点	「ペア食事券」+賞状

### 【部門】

軽井沢町内で撮影した風景

※軽井沢の四季に溶け込む自然な表情の人物・動物の写真も可

### 【応募規定】

・フィルム写真 または デジタル写真

※プリント方法は問いません

・カラープリント、PRダイレクトプリント(四ツ切・W四ツ切・A4)

・お一人2点まで

・H28.4.1～H29.2.3に撮影されたもの / 未発表のもの

・入賞作品の著作権は主催者に属します(原簿を提出)

### 【締切日】

平成29年2月3日(金)必着

### 【発表】

平成29年2月末日

### 【応募先・お問合せ】

一般社団法人 軽井沢観光協会

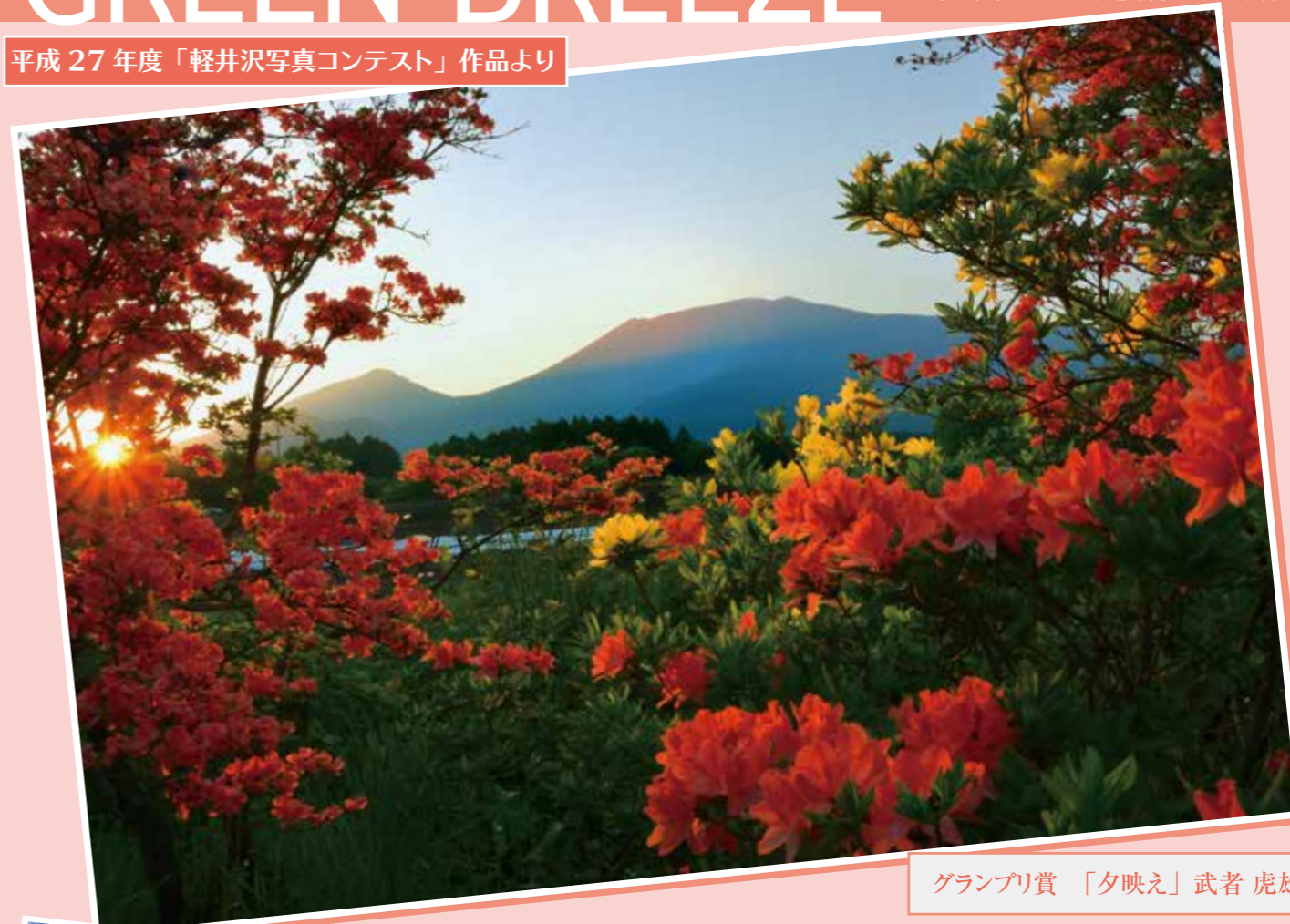
### ※応募上の注意

- 入選作品の著作権は主催者側に属し、観光PR事業に活用させていただきます。
- 賞は一人一点とします。
- デジタルデータでのトリミング・色調・濃度の微調整以外の加工・修正は一切不可といたします。
- データ提出後に過度の加工・修正が認められた場合は入賞を取り消す場合もございます。
- ご応募いただいた写真を返却することはできません。
- 入賞作品は必ず原簿を提出していただきます。
- 第三者の承諾(肖像権等)が必要となる場合には応募者の責任においてご応募ください。
- 作品の送付は、郵送でも宅配便でも構いません。ただし、送付中の事故には一切の責任を負いかねます。

# GREEN BREEZE

軽井沢観光協会広報誌

平成27年度「軽井沢写真コンテスト」作品より



グランプリ賞 「夕映え」 武者 虎雄氏



準グランプリ賞 「春を待つ雲場池」 安倍 洋平氏

### Contents

- 1 対談
  - 「芸術の力が新たなリゾートを創る」…………… 2p
- 2 軽井沢の話題あれこれ …………… 4p
  - 「世界水準のリゾート会議都市を目指して」
  - 「タクシー業界から見たインバウンドについて」
- 3 Ruiza ちゃん取材日記 …………… 7p
  - 「軽井沢ウインターフェスティバル 2016」
  - 「インバウンド誘客報告」
  - 「軽井沢ハーフマラソン」
  - 「公開挙式」
- 4 軽井沢 information …………… 8p





# Special Interview

## 「芸術の力が新たなリゾートを創る」

長野は、国内において有数の「ミュージアム（博物館・美術館）」設置県といわれています。特に、法人や個人などが運営する私立の館が多く、観光地と称されるエリアへ集中していることも特徴です。各館は質の高い美術・芸術作品の企画展示もさることながら、モダンな建築デザインと洗練された空間を提供していることから、存在する地域に



（取材場所：セゾンアートギャラリー）

においては観光資源、集客施設として重要な役割を担っています。一方、文化事業としての性格も強いので、地域文化向上へも大きく寄与します。しかしながら、今日のような変化が激しい時代においてミュージアムのあり方も変わろうとしています。今回、ミュージアムのマーケティングやマネージメントに精通し、世界の美術事情にも詳しいお二方を迎え、軽井沢におけるミュージアムの役割や、芸術が地域観光へ与える影響、ミュージアムの活用法などについてお聞きしました。

（文中敬称は略させていただきます。）

森美術館ベストフレンズ……………堀内 勉氏（以下、堀内）左  
一般財団法人セゾン現代美術館理事……………芳野 まい氏（以下、芳野）中央  
軽井沢観光協会・会長……………土屋 芳春（以下、土屋）右

### 【リゾート型ミュージアムの先駆け（セゾン現代美術館）】

（土屋）港区の高輪美術館が、1981年に軽井沢へ移転し「セゾン現代美術館」として開館しましたが、リゾート型ミュージアムの先駆けとも言われています。

（芳野）軽井沢は堤家とゆかりのある土地のひとつですが、「セゾン現代美術館」の創始者堤清二は、欧米のブランドを積極的に導入すると同時に「無印良品」というそれを真っ向から否定するような「アンチブランド」（のちに消費者によってこれもひとつの「ブランド」になってしまうのですが）をつくるなど、常に相反するものを取り込み、それを活力に変えていく人間でした。セゾンは都市型の文化でしたが、リゾートである軽井沢には、人が静謐のなかで考え想像力や創作力を養う場所となり得る可能性がありますね。

（土屋）今では各地で現代アート的美術館が見られますが、現代アートの美術館をリゾートで開館したことの意味は大きかったと思います。

（芳野）堤清二は現代アートを積極

的にコレクションしましたが、それを軽井沢の自然のなかで見せるという、相反するものを同時に取り込み、それを活力に変換しようとする彼の世界観があらわれています。都市もリゾートも、片方だけでは成立しません。その両面を吸収することは、ある意味、人間が豊かに生きるためには不可欠です。私の専門はフランス文化ですが、軽井沢と東京の関係は、ノルマンディーなどのリゾート地と首都パリとの関係に似ています。軽井沢の避暑地・別荘

地としての歴史は、こうしたフランスの避暑地にも匹敵するものですね。

（土屋）堤家は箱根とも関係がありますが、あえて軽井沢を、との疑問があります。

（芳野）都市と地方の感性が融合した軽井沢には、多くの文学者が住み、多くの作品を生み出しました。軽井沢の自然や環境が、高度に文化的な活動に活力を与えてきたのです。そうした特別な文化都市としての基盤は、重要な要素だったと思います。



▲リゾートミュージアムの先駆けとなった「セゾン現代美術館」（展示風景）

（堀内）箱根は古くから続く静養地として、軽井沢より歴史があるリゾートで、別荘も多く点在しています。時に軽井沢と比較されますが、セゾンが現代アートの美術館として開館したことは大変意義深いことだと思っています。湯治や和の雰囲気を持つ箱根に比べ、現代アートと軽井沢の相性は良く、それが軽井沢の特徴になっているからです。現代アートは、特に事業で成功した企業家に好まれる傾向が世界的に見てとれます。現代アートには固定概念がなく、先鋭的であるという意味で、自己の夢や活動を投影でき、それが企業家の志向に合っているからでしょう。洗練された新しい文化を生み出す町である軽井沢にとって、現代アートというのは正しい選択だったと思います。

（芳野）発展の可能性をはらんだ土地柄もありますね。たとえば雨宮敬次郎は、開拓精神をもって来軽し、葡萄栽培をはじめとさまざまな事業を意欲的に展開しました。数々の大失敗を経て、最後に手がけた植林の成功が、今の軽井沢別荘地景観の原点となっています。その意味では軽井沢は、挑戦するフロンティア精神が生んだ土地だと言えます。

### 【アートの社会性】

（土屋）現在、軽井沢町内には多くのミュージアムが点在し協議会もありますが、セゾン現代美術館の開館はその質と存在感において、後発のミュージアム設立に大きな影響を与えました。

（芳野）次の世界を創造していきたいという気持ちが、人間のモチベーションになります。もちろん企業活動には計画や戦略が必要ですが、経営者は最後に感性で判断することもある。芸術がビジネスに及ぼす力を信じているところから始まったのが、セゾン文化だということもできます。

（堀内）アートは常に社会への挑戦でもあり、アーティストは新たな時代をつくる旗手でもあるわけです。過去の美術を見ても、印象派なども全く新しい時代を切り開いてきた経緯がありますね。既存の価値観を打ち破るのもアートの役割です。

### 【リゾートにおける文化施設の役割】

（土屋）訪日外国人 2000 万人超の時代、国内においては観光事業が活性化しています。様々な戦略を用い誘客活動を行っていますが、同時に地域の歴史や文化に注目が集まり、その中でもミュージアムの役割が大きくなるといわれています。

（芳野）旅は、わざわざ時間を割いて出かける行為です。旅のなかでのミュージアムとの出会いが、単なる「消費」であってはもったいない。「五感全てを刺激する総合的な経験」であるべきでしょう。展示内容に啓発されることはもちろんですが、それ以上に、建築や庭の作り出す空間、そこで過ごす静かな時間のなかで自分と向き合い、感性を養うことが、ミュージアム経験の価値を高める。イメージで言うと、都市では忙しい日々の生活のなかで（美味しい）サンドイッチをほおぼり、リゾートでは静けさのなかで精進料理をいただくような感覚でしょうか。こうした経験はその後の日常生活にも、静かに、時間をかけて、影響を及ぼしていくでしょう。もちろん、こうしたミュージアムの活動を継続させるためには、それを社会における経済循環のなかでしっかりと組み込んでいくことも重要です。

（堀内）海外からのインバウンドは大変活況を呈していますが、まだ歴史も浅いことから、現段階では一般的なルート観光、指定された観光施設への集中が見られます。これからはFIT（個人旅行）が増えるため、個人の志向に合わせて様々なエリアに分散して行きます。彼らの多くは、地域文化や芸術などへの知的欲求も強

く、そのようなことからミュージアムの役割は拡大します。同時に、そうした富裕層は、質の高い本物の文化を見極める力があり、ミュージアムに限らず彼らに合わせた上質空間の提供は欠かせません。

### 【都市とリゾートのミュージアム】

（土屋）堀内さんは、「森美術館（東京・六本木）」の開館にも携わりましたが、改めて、ミュージアムを含め都市と地方の違いはなんでしょう。

（堀内）都市は常に新しい価値を創造しています。クリエイターは新たな価値を生み出す刺激を得ようとして、都市はそのニーズに応じています。即ち、都市の役割というのは、過去の製造業的な物造りの場に対して、インテリジェントでクリエイティブな知的生産活動の場の提供です。そうした意味から、都市に最先端のミュージアムが存在するのは必然的なことで、森美術館は新たなアーティストを発掘し、育成し、世界に発信していく機能も担っています。

（土屋）軽井沢は近年、ホテルや都市型店舗の開業が計画されていることから、観光地から滞在型のリゾートへの変貌がさらに進んでいくと感じています。ミュージアムも同様に、企画展示を中心としている館もミュージアムの既存概念に囚われない視点が求められています。

（芳野）ミュージアムの基本は、普遍的な価値のある作品を紹介、保存することです。リゾートにあるからといって、その場をしのぐためだけの観光目録の内容を提案することではありません。軽井沢のような豊かな歴史を持つ



▲森美術館内展示の様子（アーバン型ミュージアム「森の美術館」）



た土地では、ミュージアムと土地とが互いに価値を高めあうような活動を共に探していくべきでしょう。

**(堀内)** 軽井沢には質の高い飲食店や店舗もあり、ある意味で都市機能も備わっています。西洋の雰囲気を感じ出し、別荘族を受け入れてきた上質な空間は、他のリゾートには無いもので、さらに今後は都会からの移住も進むかもしれません。となると当然、ミュージアムも観光客目線から生活文化の中で育まれる要素が出てきます。今後、クリエイターやアーティストの移住も進み、軽井沢の新たな価値が生まれる可能性があり、それにどう応えていくかが大きな課題です。

### 『軽井沢をアート空間に』

**(土屋)** 十日町市・妻有の「大地の芸術祭」や瀬戸内海・直島の「アートプロジェクト」のように、アートを“まちづくり”に生かす活動が各地で見られます。

**(堀内)** 妻有は作品を年々増やす一方、パフォーマンスとして飲食とアートを融合させるなど、新たな挑戦により来訪者に楽しさや満足感を与えています。直島

は島全体がアート空間となっていますが、同様に、頭で理解するよりも体で感じる場を提供しています。また、多くの地域では住民とアートが一体となり、地域全体で芸術空間を演出しています。その長年の努力は地域のブランディングに大きく貢献し、「芸術のまち」と言えば、直ぐに越後妻有や直島の名前が出るようになりました。軽井沢の歴史や文化も大切にしながら、今後は新たなアートを創造する場としての役割も大切になると考えています。但し、そうは言っても、妻有や直島の二番煎じでは意味がなく、先進性と情報発信機能が兼ね備わる、軽井沢らしい“アート・まちづくり”が必要だと思っています。

### 『軽井沢のミュージアムに求められるもの』

**(土屋)** 軽井沢には美術館が多く、質の高さも評価されています。今後発展するためには、どのような方向がありますか。

**(芳野)** 基本的には、「そこにしかない」作品を、土地と共にその価値を相互的に高めるようなかたちで、見せていくこ

とだと思っています。

**(堀内)** 例えば、美術館同士が連携して、統一テーマでの展示会の開催も一考かと思っています。ミュージアムの運営には、アートマネジメントとしての視点が大切で、時代のニーズを的確に捉え、そのミュージアムの社会的位置や役割を再構築する能力が必要です。全国を見渡せば、ただの自己満足で終わっているようなミュージアムもありますが、軽井沢ではそうした轍を踏まない努力が求められています。

**(芳野)** ニーズを後から追いかけるのではなく、攻めの姿勢で時代に勝負をかけられる。そのためには、大胆な発想を速やかにかたちにするための仕組み作りもたいせつですね。

**(土屋)** 軽井沢のリゾートとしての重層感を高める意味において、文化・芸術は重要です。個々のミュージアムの質向上は当然ですが、同時に地域として「芸術・美術・文学」など、文化的なブランディングの構築も急がれます。観光協会では、内外のミュージアムや地域活動の情報収集に努めるとともに、軽井沢らしい芸術文化都市になるよう活動を進めてまいります。



## 軽井沢の話題あれこれ

### 世界水準のリゾート会議都市を目指して



2016年9月、長野県内初のハイレベルな国際会議「G7交通大臣会合」が、ここ軽井沢町で開催されます。

G7交通大臣会合の開催は、国内有数のリゾート地“軽井沢”が、世界水準のリゾート会議都市というステージに進む1つの契機になります。観光協会の皆様も会合の開催を全力でサポートし、まずは店舗等の道路から見える位置に右のポスターを貼っていただき、町全体で気運を盛り上げましょう！

軽井沢町役場 企画課 閣僚会合推進係 竹本 浩次

300日イベント  
軽井沢高校生作成による「カウントボード」



▲G7 軽井沢交通大臣会合 200日前イベント (次世代型電気自動車の展示も)



▲指輪ホテル「あんなに愛しあつたのに〜津南町大倉雪覆工篇」  
(Photo by Hiroshi Hatori)

大地の芸術祭より  
(十日町市妻有)



▲草間彌生「花咲ける妻有」(Photo by Osamu Nakamura)



**『芳野まい』氏**  
(一般財団法人セゾン現代美術館理事 / 主席研究員)  
東大教養学部卒。フランス政府給費留学生としてソルボンヌ大学で学ぶ。  
東大大学院総合文化研究科(博士課程)満期退学。  
専門はフランス文化・フランス文学。  
NHK ラジオ講座「まいにちフランス語」講師。  
東京成徳大学経営学部経営学科学准教授。



**『堀内勉』氏**  
(森美術館ベストフレンズ /  
(一社) 軽井沢ソーシャルデザイン研究所理事)  
東大法学部卒。ハーバード大学法律大学院(修士課程)修了。  
興銀、興銀証券、ゴールドマンサックス証券、森ビルインベストメントマネジメント社長、森ビル専務取締役 CFOなどを歴任。  
現在、軽井沢インターナショナルスクール監事、田村学園理事・評議員、青山学院大学院客員教授、多摩大学特任教授、日本 CFO 協会主任研究員、経済同友会幹事など役職多数。

(協力：一般社団法人 軽井沢ソーシャルデザイン研究所代表 鈴木 幹一氏)

(写真提供：新潟県十日町市)

### タクシー業界から見たインバウンドについて

政府は、2020年に訪日外国人を2000万人、2030年には3000万人とする目標の達成に向け様々な施策を講じています。今後、訪日外国人との交流を通じて地域経済を活性化するために、一部の地域だけの取り組みではなく、日本各地で外国人旅行者を受け入れることが求められてきます。外国人旅行者のニーズは、日本人のスケールだけでは計り知れない多様性を持っています。外国人旅行者は、日本の観光地の弱点である平日を埋めてくれることもあり、地域経済の安定化につながることできます。外国人旅行者の旅のスタイルやパターンは年々変化しています。初めて日本を訪ねる外国人から、日本を二度三度と訪れるリピーターまで多様化し、団体旅行から個人旅行へとシフトしています。そうした変化に伴い、「有名観光地以外に日本各地を巡りたい」「地域の生活や文化を体験し住民との交流を楽しみたい」という滞在交流型観光を志向する旅行者も増えています。そのため、各地域にとってインバウンド着地観光地への取り組みは観光を通じた街づくりのチャンスとも言えるのです。タクシー会社においても、外国人旅行者よりメールでの予約や町内外から電話が増えています。そのチャンスをフル稼働につなげたいと思っております。今後、訪日外国人は団体旅行から個人旅行へと益々変わっていきます。各タクシー会社はその目標に向けて邁進していきます。

広報委員会 松葉 和彦





## 軽井沢ウィンターフェスティバル 2016

### 軽井沢・冬ものがたり ～雪 ふわふわ ホッ!～

今回ウィンターフェスティバルのメインイベントとして2015年11月28日(土)軽井沢クリスマスマルシェ(軽井沢駅前通り) 2016年2月13日(土) バレンタインマルシェ(軽井沢駅自由通路) を開催致しました。

開催するにあたっては、初めての試みということもあり道路使用許可・軽井沢駅使用許可、それに伴う電気使用他、さまざまな準備等々、実行委員会では試行錯誤の連続でした。

出店者は軽井沢観光協会・軽井沢町商会・上田地域振興事業団・小諸市観光協会等たくさんの方々にご協力頂きました。

両日も天候に恵まれ、マルシェ、花火等訪れた皆様楽しんで頂けたと思っています。特にバレンタインマルシェにはインバウンドのお客様も多く、「サプライズ!」と喜ばれました。

私自身、イベントの参加は初めてでしたが、たくさんの方々のご協力のもと、『大成功!』であったと思います。皆さんありがとうございました。

新しい試みではありましたが、これからも訪れた皆様に喜んで頂けるイベントとなって行きます事を期待いたします。

軽井沢・冬ものがたり実行委員会：マルシェ担当 佐藤 学



軽井沢駅通路での販売



花火を取材する Ruiza ちゃん



中央通り

## 軽井沢を知っていただく活動について ～インバウンド誘客～

軽井沢における海外からの誘客は、観光協会のインバウンド部会を中心に「海外に向いてPRする」ことの他に、長野県国際観光推進室など、多くの方々の協力により、招聘事業も行っています。招聘事業とは、各国からお呼びしたいの方々をお願いして、軽井沢に来てもらい、実際に軽井沢をご覧いただき、旅行商品造成やブログに書いてもらい誘客につなげるという事業です。

観光協会が重要地点としている、台湾・香港はもちろん、タイ・シンガポール・マレーシア・フィリピンなど、様々な国からの旅行社やプロガーをお迎えし、平成27年4月～平成28年2月まで、延べ 31件の招聘事業を実施しました。同行するスタッフは、招聘者の要望に添う様な場所をご案内しています。せっかく軽井沢に来てもらっているのに、軽井沢の空気、景勝、雰囲気など、言葉では伝わりにくい部分もお伝えしています。軽井沢をより良くご紹介することに心掛け、少しでも誘客につなげられればと思っています。

事務局 新宅 弘恵



(体験型の誘客が増えている)

## 軽井沢ハーフマラソン

2015年10月25日どこまでも青い空の下で、第6回軽井沢リゾートマラソンが開催されました。

観光協会のフルーツデスクは今回も大好評。

インターナショナルスクールの学生も加わった国際色豊かなスタッフは、ランナーへのフルーツ提供に、声援にと大忙しでした。

参加者は、軽井沢の秋の陽差しを身体いっぱい浴びながら、美味しい空気とみずみずしい果物を満喫され、この上ない笑顔振りまいて走り抜けていきました。

中にはシャインマスカットのおかわりに戻ってくるランナーもあり、最後まで微笑ましい光景が続きました。

広報委員会 須永 久



## 2016年1月10日 公開挙式



毎年全国よりカップルを募集して、1組に結婚式をプレゼントするという企画の「軽井沢ウェディング公開挙式」。第7回目を迎えた今年は“カーリング場での結婚式”。ウィンタースポーツで賑わう軽井沢らしい晴れの舞台での挙式を執り行いました。

公募で選ばれたのは、挙式場となる「軽井沢アイスパーク」をホームリンクにする、カーリングペアのカップル。まさにこの会場にふさわしいおふたりです。

挙式の進行・設営などおふたりからアドバイスをいただき、挙式に向け協会スタッフ総出でサポートさせていただきました。当日は「軽井沢オープンカーリング大会」終了後の開式。アイスパークのスタッフの方々の手際よい設営によりスムーズにお式を迎えることができました。

ウェディングドレス姿の幸せな花嫁が、父親のエスコートで進む先にはタキシードに身を包んだ花婿。オルガンの演奏にあわせ歌う賛美歌と、氷上の結婚式をおよそ200名の観客がスタンドより見守り祝福しました。式のフィナーレには新婦が待つハウスに向かって新郎がストーンを投じる“ファーストストーン”のセレモニー。新婦のチームメイトの皆様にもお手伝いいただき、見事に決まったショット!会場は大歓声に包まれました。

挙式後の写真撮影では、おふたりとぜひ記念写真を!と希望する方がたくさんいらっしゃいました。ふたりをつないだカーリングが、ご夫婦の絆をつないだ公開挙式は多くの方々のご尽力で結びとなりました。

ご協力ありがとうございました。

軽井沢ウェディング協会催す会 寺島 克弥



新郎によるファーストストーンショット



見事!ハウス中央に!